

# 当別文芸の会だよりNO.97

H30・11/12 (連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550)

## 10月の読書会は松本侑子の「島燃ゆ」―隠岐騒動―でした

錦秋の季節となった10月27日(土)の読書会には、会員8名の方が参加されました。今回は松本侑子の「島燃ゆ」―隠岐(おき)騒動―でしたが、この文庫本を紹介していただいた東前寛治さんの司会進行により、読書感想交流を行いました。

著者の松本侑子は、昭和38年(1963)、島根県出雲市生まれで、筑波大学で政治学を専攻し、すばる文学賞、新田次郎文学賞などを受賞し、翻訳家としても活躍している作家です。

この作品は、平成25年(2013)発刊の歴史小説「神と語って夢ならず」を改題し、文庫本として光文社から出版したものです。

日本海にある隠岐は、出雲の国・松江藩(後の島根県)の陣屋が置かれた島ですが、後鳥羽上皇や後醍醐天皇をはじめ、みやこの政変にやぶれた貴族や親王が島流しにあった島でもあり、江戸時代には日本海航路の重要な寄港地でした。

幕末には、外国船の開港を求める狼藉(ろうぜき)も見られ、当時の勤皇佐幕から勤皇討幕に向かう時流のなかで藩と対立する騒動が起こり、一時、島民が自治を勝ち取るといった内容が、平易な文章で書かれているのが本作品です。

感想交流では、「史実を丹念に調べ、主人公に作者の思いも重ねている」「自然の描写などは、女性作家ならではの感性が感じられる」「明治維新後の作中人物のその後は無くても」などの意見もありましたが、おおむね好評でした。

残りの時間は、「当別文芸」(第8号)の執筆者から、作品の思いを語っていただきました。

向寒の時節になります。みなさん、元気でこの冬も乗り切りましょう。

### 次回のご案内 「公開・文芸セミナー」

<日時> 12月1日(土) 13:30~15:40

<会場> 白樺コミュニティセンター

<話題提供> 「わたしのエンジョイ人生」―くらし・絵画・音楽ほか―

提言 当別文芸の会副代表 大澤 勉 さん

\***町民のみなさんにPR よろしくお願いいたします**